

稿 KŌCHŪ 虫

伊豆諸島三宅島にヒラタクワガタ産す

市川 敏之

ヒラタクワガタ *Serrog-nathus titanus pilifer* S. VAN VOLLENHOVEN は伊豆諸島では大島・利島・新島から記録されているが、筆者は三宅島で採集された個体を採集者の川田一之氏から恵与頂いたので同島初記録として報告する。

1♂, 三宅島大池, 14. VII. 1975, 川田一之採集

なお、同島からは同種以外にミクラミヤマ? *・ノコギリ・コ・スジ・ネプト・マメ・チビの7種のクワガタムンが記録されている。

*) 久保快哉, 西山保典 (1967), 三宅島・神津島を訪ねて, INSECT MAGAZINE No. 66, p.10

(☎114 北区王子本町2-1-17)

北海道利尻島のマグソコガネ2種

石田 正明

昨夏、娘が北海道旅行で利尻島にいった時、数種の甲虫を採ってきたが、その中にマグソコガネが2種4頭あった。いずれも、いままではっきりと記録されていない種と思われるので、ここに記録しておきたい。

採集データはすべて同じで、下記のとおりである。

採集地：北海道利尻島小黒牧場

採集日付：1975年8月28日 採集者：石田ひろみ

1. *Aphodius (Otophorus) haemorrhoidalis* (LINNÉ) ツマベニマグソコガネ

1♂, 体長5mm, 鞘翅の肩部および両翅端は赤褐色, 他は黒色。ab. *sanguinolentus* (HERBST) にあたるものである。牛糞より得た。

2. *Aphodius (Bodilus) sordidus* (FABRICIUS)

ヨツボシマグソコガネ

2♂♂, 体長8mmと7mm, 1♀, 体長7mm, いずれも上翅は肩部と中央後に暗色紋をそなえるが、その発達は悪い。一見したところ原型に近いように見える

が, ab. *quadripunctatus* (PANZER) に同定すべきものであろう。牛糞より得られた。

上記2種はともにアジア大陸北部からヨーロッパにかけてひろく分布する地方型のマグソコガネで、もちろん北海道本島に産することはすでに知られている。したがって、利尻島に産することは当然のことであろう。なお、利尻島の北に位置する礼文島にも牧場があるそうであるから、礼文島にも産することは予想される。

(☎168 杉並区宮前3-23-5)

セマルオオマグソコガネ対馬の記録

小幡 幸正

セマルオオマグソコガネ *Aphodius brachysomus* SOLSKY は比較的少ない種で、分布は北海道・本州・佐渡・九州・トカラ宝島および朝鮮・東シベリア・支那と広いが、対馬における記録はまだないようなのでここに発表する。

1 ex. (死骸), 北対馬内山牧場, 27. IV. 1974

1日ほどたった牛糞のわきにころがっていた個体で、ひどく破損していた。また、この個体は上翅端に黄斑の出ている型であった。この内山牧場は最近新しくできたものらしいが、他にヒメダイコク・エゾマグソ・スバタママグソ・ウスイロマグソ・マグソコガネ・カドマルエンマなど個体数は多く見られた。

(☎151 渋谷区千駄ヶ谷3-13-12)

ヤクルリセンチコガネ大川林道に多産

藤田 宏

ヤクルリセンチコガネ *Geotrupes (Phelotrupes) auratus yaku* TSUKAMOTO は屋久島特産の亜種で、小杉谷が産地として知られるが、採集例は少なく稀な種とされている。

筆者は1974年夏期に屋久島を訪れた際、下屋久町大川林道にて本種を採集しているので記録しておきたい。

3♂♂ 2♀♀, 屋久島下屋久町大川林道,

30. VII~7. VII. 1974, 藤田宏採集

同地、大川林道は近年クロモンキイロイエ・オガサワラチャイロ等をはじめとするカミキリムシの珍種を多産することで有名となり、この時もかなり多勢のカミキリ屋が同林道を7~8km程登った地点に参集していた。ヤクルリセンチコガネはこれら同地で寝泊りしている採集者の人糞に多く見られた。もとよりカミキリ屋ばかりなので他の糞が見つかるはずもないが、朝 (AM 8:00~9:00) 用をたすと、昼近くにはヤクルリセンチコガネが次々と飛来してきた。特に注意して採っていたわけではないので、専念すればかなり多く採集できるもので

はないかと思われる。(この時は他の採集者と合わせ10数頭が得られた)

今まで採集例が少なかったのは中～高地帯で狙っていたためではないだろうか。大川林道の採集地点は標高300～400mのタブ・シイ等を主とした低山帯である。

カミキリ屋ばかりであったため、誰も採集していなかったが他にも非常に多数の *Onthophagus* 類をはじめ糞虫が多く、朝の人糞は夕方にはほぼ分解しつくされてしまうほどであった。ヤクルリセンチばかりでなく糞虫一般にかなり好適な地と思われるので、糞虫に興味のある方で、今後屋久島を訪れる方にはぜひとも立ち寄って、本格的な調査をしていただきたいものである。

末文ながら本種の分類上の位置等について色々御教示下さった石田正明氏に感謝したい。なお、標本は石田正明・長尾悟・小幡幸正の各氏が保管されている。

(㊤110 台東区台東2-29-6)

四国のムツコブスジコガネの記録

長尾 悟

Trox mutsuensis NOMURA ムツコブスジコガネは、原産地(青森県恐山)とその後北海道札幌市円山公園の記録が知られるだけで、筆者は先に New Insect Vol. 18, No. 2 に長野県下の採集例を報告したが、その際に四国における記録があると言及した。ここに本種の新分布地として四国を加えたい。

1 ex., 徳島県剣山見の越, 31. Ⅶ. 1972, 長尾悟採集
灯火に飛来していたものである。

なお、本稿を書くにあたりお世話になった三宅義一先生に深く感謝の意を表す。

(㊤162 新宿区南榎町5 南榎町アパート57号)

オオダイセマダラコガネ福井県冠山に産す

佐々治寛之

オオダイセマダラコガネ *Blitopertha ohdaiensis* SAWADA は従来本州紀伊半島山地、四国石鎚山、九州英彦山・祖母山・霧島山に限って分布し、あたかも地史と深い関連をもつかのように思われたが、最近、兵庫県扇の山からも報告され、同定誤りでなければ大変興味深いことと思っていた。ところが、黒川秀吉氏(福井市森田中学校教諭)から同定を依頼された昆虫標本の中に福



井県産の本種を見出したので報告する。データは次のとおりである。

福井県冠山, 5~6. Ⅷ. 1974, 黒川秀吉採集

(佐々治保存)

冠山は福井県今立郡池田町と岐阜県揖斐郡徳山村との県境稜線に位置し、頂上標高1257mで、採集したのは池田町田代から頂上への登山路であるが、途中、多くのセマダラコガネを採ったので、こまかな位置は不確かとの由である。

なお、近縁の普通種であるセマダラコガネは衆知のように色彩や大きさの変異が著しく、中には図鑑に示されたオオダイセマダラとそっくりのものもあり、しばしば誤同定されるが、上記の標本はまぎれもなく本物のオオダイで、九州祖母山の多数の標本と比較しても差は見出せない。最後に発表と標本保管を委ねられた黒川氏の御好意にお礼申し上げる。

(㊤910 福井市文京3 福井大学教育学部生物学教室)

ナガヒラタムシ属2種の分布記録

長尾 悟

筆者の手許のナガヒラタムシ属の標本を調べてみたところ、次の2種について報告すべき分布記録があった。

Cupes clathratus SOLSKY ナガヒラタムシ

本種は、Vladivostok (ウラジオストック) 原産であり、本邦においては北海道から九州まで分布するようだが、島嶼部における分布記録は少ないようである。筆者は、伊豆諸島御蔵島で本種を採集している。

1 ♂, 東京都御蔵島村里, 17. Ⅶ. 1973, 筆者採集

C. japonicus TAMANUKI ヒメナガヒラタムシ

本種については、中根(1973)*が本州(紀伊半島)・四国を分布地としている。原産地は伊予笹山(愛媛)で ATKINS の Mt. Hakkoda (八甲田山?) の記録もあるようだ。筆者の手許には、木村欣二氏よりいただいた伊豆半島の標本がある。貴重な標本を下さった感謝の意もこめてここにデータを公表しておく。

1 ♂, 静岡県伊豆半島猫越, 16. Ⅶ. 1967, 木村欣二採集(両種とも標本は筆者が保管)

なお、日本のナガヒラタムシ科は他に南西諸島で以前より得られていた *Cupes* sp. と別にもう1種九州で *Cupes* sp. が採れているようなので、今のところ4種類は産するといえよう。

*) 中根猛彦, 1973: 「新シリーズ, 日本の甲虫」1, 昆虫と自然8(9), 2~3

(㊤162 新宿区南榎町5 南榎町アパート57号)